

廃棄物処理対策研究事業 中間評価 評価結果

研究課題名	代表研究者	総合評価	学術的 必要性	社会的 必要性	目標の 達成度	計画の 妥当性	継続 能力	補助の 必要性
ビジネススタイルの相違による廃棄物排出抑制及び再生利用促進効果の検証と変革のための成立要件に関する研究	北九州市立大学 乙間 未廣	3.5	3.4	3.7	3.2	3.2	3.7	3.3

(研究概要) 研究概要及びこれまでに得られた研究成果を400字以内で記入

リース、レンタル等はサービス提供型または製品ライフサイクル管理型ビジネスと呼ばれ、その普及により環境負荷の低減や廃棄物量の削減が期待されている。本研究はこれらのビジネススタイルを体系的に調査し、その効果を定量的に評価することを目的とする。研究初年度である平成15年度は、該当する既存ビジネスを精査し、製品の管理強度と消費者ニーズの観点から分類・整理するとともに、消費者のリース・レンタル受容性についてWebアンケートを実施し因子分析した。その結果、(1)製品提供者が製品のライフサイクル全体を一体的に管理するビジネススタイルはまだ少ない、(2)消費者の新品志向は依然として強いがサービス提供型ビジネスの特性である長期保証・アップグレード・引取りなどに対する要望も強い、(3)男性の方が女性よりサービス提供型ビジネスの特性をよく理解している、等が明らかになった。平成16年度は、これらビジネススタイルの環境効果を定量的に評価する。

(評価コメント)

- 得られた結果を目的にどの様に適用するのか。統一的な手法が確立されているとは思えない。
- 初年度は、基礎データを取得した段階で、2年度目以降の環境、経済評価に期待する。
- リース/レンタルの成立要件を整理していく必要がある。個人の使用期間が短い製品への考察が見当たらない。
- 有害物管理の評価、事業者と一般家庭別の分析が必要。
- リースについて、女性をステイムレイトしないとなかなか進まない、ということだが、女性はリースの何を嫌うのか。

注) 評価コメントについては、研究課題代表者が、総合評価を評価者全体の評価結果として捉えた上で、すべての評価コメントの反映を目指すのではなく、各コメントの中で今後活かすべき重要な指摘や示唆が何かを吟味・判断の上、今後の研究計画の見直し等に活用することを期待する。